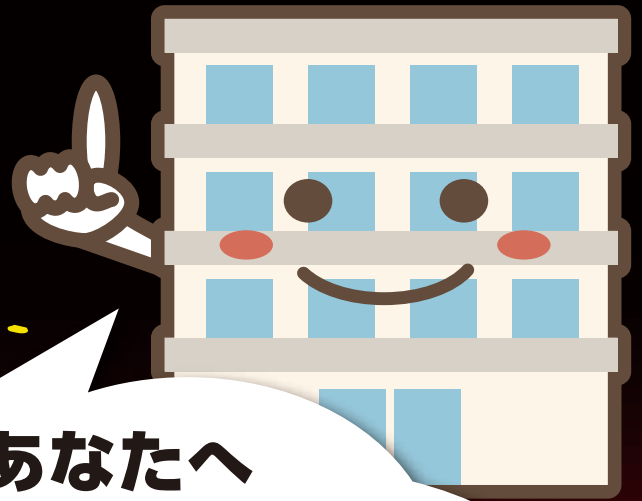


火災要領



一人暮らしのあなたへ
気を付けてください!

火災を

起こさないために…

一人暮らしを始める皆様、新たに始まる生活に期待に胸を膨らませていることと思います。しかし、その前に、「火災」について、じっくりと考えてみてください！火災は一人暮らしを始めたばかりで、家事に慣れていない方が起こすケースが少なからずあります。

火災は、一度起こると、家具や思い出のある品、かけがえのない命まで失いかねません。また、火災を出したことで、隣近所に迷惑がかかり、その後のあなたの人生が狂ってしまうことも考えられます。

火災を起こさないため、一人暮らしのあなたが何に？どのようにして？気を付ければいいのか。それを簡単にまとめてみました。ぜひ、最後まで目を通していただき、あなたの楽しい新生活を送る手助けができればと思います。

★本リーフレットは、あなたの生活と明るい未来を火災から守るバイブルです★



火の用心

一人暮らしでよくある火災



ケース
1

こんろに関する火災

詳しくは
コチラ



火災事例

- ①揚げ物をするため油を加熱中、スマートフォンの操作で目を離れた1分間に、鍋から出火。慌てて水をかけた結果、炎が拡大し火災となった。
- ②こんろの周囲にまな板やタオルなどが散乱、鍋底からあふれ出た火が周囲の物に着火し、火災となった。



こんろの安全装置って何?

現在市販されているガスこんろは、安全装置（過熱防止装置、焦げ付き防止装置、立ち消え防止装置など）が設置されていますが、一口こんろや電気こんろ、古いタイプのもは安全装置が設置されていないものがあります。

また、温度センサーなどの安全装置が設置されているIHクッキングヒーターでも、少量の油での調理や鍋の形状が適正でなければ、安全装置が機能しないこともあります。



こんろに関する火災を防ぐポイント

- 調理中は絶対にその場を離れない。
- こんろの周りは整理整頓し、物を置かない。
- 少ない油で調理するときは、発火しやすいので注意する。
- 油汚れを定期的に清掃する。



天ぷらなべ火災の正しい消火方法

①火が出たときは、絶対に水をかけてはいけません。水をかけると炎が爆発的に大きくなり大変危険です。

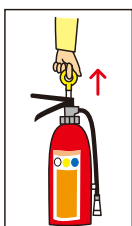
②炎がまだ小さい（炎の高さが10cm程度）場合

まず、こんろの火を止め、鍋に蓋をして空気を遮断することで消火できます。この場合、油の温度が十分に下がるまで蓋を開けないでください。

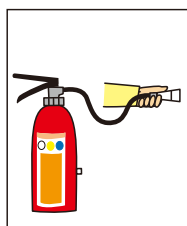
また、炎が小さい間は、スプレー式消火具も有効ですので、購入を検討してみてください。

③炎が大きい場合

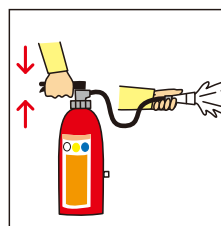
消火器で消火する方法が最も有効です。マンションの廊下のどこに消火器が置いてあるか、消火器の使い方を普段から確認しておきましょう。



安全ピン（栓）を上
に引き抜く



ノズルを火元に
向ける



レバーを強く握る





火災事例

- 布団の上で喫煙し、たばこの火種が落下したことに気付かずに外出した後に、火災となった。
- 吸い殻をごみ箱に捨てたが、火が残っていたため火災となった。
- お菓子の箱やカップラーメンの容器など、灰皿以外の物を灰皿代わりに使用し火災となった。

たばこ火災は炎が出ない?

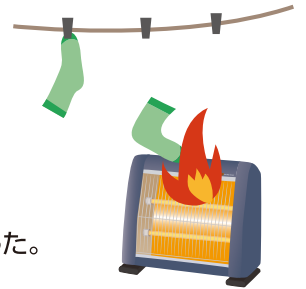
たばこによる火災は、初めは炎を伴わない無炎燃焼が起こり、布団や畳を焦がしながら徐々に燃え広がるため、燃えていることに気付きにくい性質があります。

発火するまで時間が掛かるので、外出したり、寝てしまった後の思わぬ時間に火災が発生します。発火まで数十分から数時間かかることもあり、注意が必要です。

また、飲酒等をしていて深い眠りに就いていると、気付かないうちに煙を吸って、一酸化炭素中毒になり、死に至る場合もあります。

たばこ火災を防ぐポイント

- 布団の周りでは、たばこを吸わない。
- 寝たばこは絶対にしない。
- 灰皿以外の物を灰皿代わりに使用しない。
- 吸い殻を捨てるときは、必ず水をかけてから捨てる。



火災事例

- ① 電気ストーブのスイッチを入れたまま就寝し、寝ている間に布団が接触して火災になった。
- ② 室内に干していた洗濯物が電気ストーブの上に落ちて火災になった。

電気ストーブに潜む危険性

電気ストーブは、空気が汚れない、給油する必要がない、どこでも手軽に使えるため、多くの方が使用されています。しかし、電気ストーブは、正面付近は非常に暖かくなりますが、それ以外の場所ではあまり暖かさを感じられないことから、ストーブに近寄りがちとなります。このことから布団や着衣が接触し、火災に至るケースが多いと考えられます。

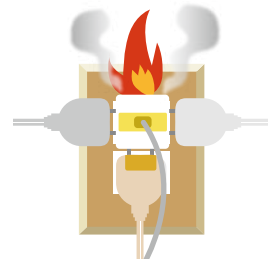
電気ストーブ火災を防ぐポイント

- 電気ストーブをつけたまま、外出しない。就寝しない。
- 燃えやすいものやスプレー缶などを近くに置かない。
- ストーブの近くで洗濯物を乾かさない。



ケース
4

電気火災



火災事例

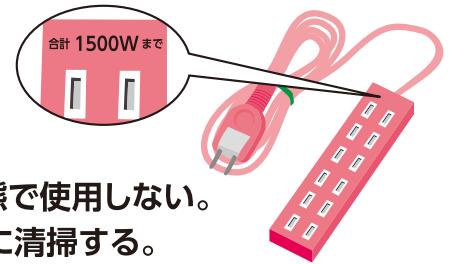
- 1 たこ足配線をして、複数の電気製品を同時に使用したことで、発熱して火災になった。
- 2 電気コードが折れ曲がったり家具の下敷きとなって、半断線状態となり、発熱して火災になった。

コンセント等の定格容量って知ってる？

コンセントやテーブルタップには、電気の容量の限界があります。例えば、定格容量が1,500Wのテーブルタップに消費電力が700Wの電気ポットと1,300Wの電子レンジを同時に使うと、定格を超えてしまい、電流が多く流れることでテーブルタップ自体が発熱し、火災の危険があります。

電気火災を防ぐポイント

- コンセントやタップは決められた容量内で使用する。
- コードは、家具の下敷きに気をつけ、束ねたり、折れた状態で使用しない。
- プラグはコンセントにしっかり差込み、ほこりなどを定期的に清掃する。



ケース
5

その他の火災

電子レンジ

電子レンジで食材を長時間加熱しすぎて、食材が発火する場合や、冷凍食品を袋ごと加熱したことにより袋が発火するなどの火災が増えています。(レトルトパックやお菓子の袋など)

- ▶ 電子レンジの取扱説明書等で食材の適性な加熱時間を確認し、加熱しましょう。

アロマキャンドル

アロマキャンドルやアロマポット、お香などにより家具を焦がしたり、カーテンに燃え移ったりして火災となった事例があります。

- ▶ アロマキャンドルやポットなどの周りに燃えるものは置かないようにしましょう。また、キャンドルホルダーやアロマポットが突然割れたり、予想以上に高熱となったりすることもありますので、置き場所に注意し、断熱性の高い受け皿を使いましょう。



リチウムイオン電池

携帯電話やモバイルバッテリー、ノートパソコンなどに使用されているリチウムイオン電池からの火災が増えています。

- ▶ 充電器などは、メーカー指定の物を使用しましょう。また、電池に膨張、異音など異常が生じた場合はすぐに使用を中止しましょう。



一戸建て住宅や、小規模なマンション
などにお住いの方へ

住宅用火災警報器を確認・点検しましょう!

寝室と台所に、住宅用火災警報器の設置が必要です。半年に一度は、点検ボタンや点検ひもで作動確認しましょう。未設置の場合や、点検の結果、異常があった場合は、すぐに大家さんや管理会社に相談してください。

※延べ500㎡以上のマンションなどには、自動火災報知設備が設置されています。自動火災報知設備の感知器は、有資格者が点検します。



火災が発生したら被害の大小に関わらず、
すぐに消防 **119番** へ通報しましょう!!